

税についての作文で

神崎中3年 木内彩紀さんが

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

を受賞

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税についての作文」。本町から作品を応募した神崎中学校3年の木内

彩紀さんが、見事、東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました。また、日東寺 由香さんの作品が千葉県香取県税務事務所長賞に、鳥羽 桃花さんの作品が香取地方教育委員会連絡協議会長賞に入賞しました。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました木内彩紀さんの作文を紹介します。



家業から学んだ

税の仕組み

神崎中学校3年

木内彩紀さん

三学年に進級した頃から消費税が増税になるというニュースが流れ、そして、夏休みに入った頃、耳にしない日がないほど毎日のようにテレビや新聞で見聞きしていました。八月に入り「消費税増税を柱とする社会保障と税の一体改革関連法案」が国会で成立しました。普段は全くと言って良いほど「税」の事など気にしたり考えたりした事がなかった私でしたが、消費税とはどういう税なのか、とても気になり始めました。

父はガス販売の会社を営んでいます。そこで、父の会社と消費税の関わりを聞いた所、「お客様から一時的にお預かりした消費税

をうちの会社の場合は、消費税の中間納付という制度を利用して年に二回に分けて所轄する税務署に納付しているよ。」という、一括での納付以外にも半年や三ヶ月ごとや毎月の納付という三種の納付方法があることがわかりました。

また、「私たち事業者はお客様から受け取った5%の税額から、仕入れの時に支払った5%の税額を差し引いて申告、納税する。」とのこと。取引が行われる各段階で商品やサービスなどに課税されるため二重、三重に課税されるようになっていいるなど、消費税の仕組みを父から教えてもらいました。さらに、「従業員の所得税は、一年間の収入を予想して毎月の給与や賞与から源泉徴収という形で引かれ、会社が従業員に代わって税務署に納めている。」とのこと。このことから会社が納税の重要な一翼を担っているのだなという事も合わせて理解できました。

私がい物をした時も、消費税を払っているとあらためて気付くことができ、消費税は大人だけでなく子供まで国民全員が支払う税なのだとも認識しました。今は百

五円で買ったお菓子が増税になる二〇一五年には百十円になります。本音を言うとお小遣いは目減りしてしまい残念な気もしますが、私達が築いていく未来をよりよくするために、消費税引き上げも必要な事だと思いました。今まで意識しなかった「税」の大切さを感じながら社会の役に立っていると思うと、身のひきしまる思いです。

私の住んでいる神崎町は、千葉県で一番人口の少ない自治体です。それでも、「小中学生医療費助成事業」や「小中学生の給食費二分の一助成事業」など私達が直接見えるかたちで税金が使われていることを知りました。さらに校舎や体育館や教科書も国や県や町の税負担のもと運営されている事に感謝しなければいけないと思いました。

「税」と言っても所得税や住民税など色々な種類の税もあります。それぞれの税の意義を理解して、今は税金を払う立場ではなく使う立場ですが、その税金によって私達は支えられています。ですから私も社会人になったらきちんと納税をして、他の人達を支えられるようになりたいと思います。